

## 消防団長紹介



### 高槻市消防団 団長 小松 良一

鎌倉時代に高月の地名が起こり、「月」が「槻」に変わったのは、夕日の影が生駒山まで届くという槻（けやき）の大木に因むという伝承があります（諸説あり）。

芥川城や高槻城が建立され、江戸時代には、淀川の治水、西国街道の宿場町、富田の酒場等で栄えました。

高槻市が誕生したのは昭和18年1月1日、明治22年町村制施行以来、様々な町村合併を経て、現在に至ります。高槻市は大阪市と京都市の中間に位置し、歴史的遺産（古墳や史跡）も多く、北端はみどりの北摂連山、南端は水の淀川で区切られ、水と緑の豊かなまちです。是非一度お越しください。

高槻市消防団は、昭和14年高槻市警防団を組織し、昭和22年に高槻市消防団へ改組しました。その後、町村合併にて各消防団とも合併し、昭和42年に定員800名へと増強、大阪府下最大の消防団となりました。高槻市消防団は団本部1、各地域11分団55班から成り、地域毎に連携訓練等を行い、地域防災の要として活動しています。現在では女性消防団員も加わり、火災や、警戒活動だけではなく、地域の祭りやイベントに参加し、防火防災の啓発活動を行っております。

私は、平成元年に拝命以来、平成17年に班長、平成19年に副分団長、平成22年に分団長、平成30年には副団長を歴任し、平成30年には団長となりました。各功労賞や精績章等を頂き、令和元年には藍綬褒章を頂きました。

消防団活動において、私の記憶に残っているものとしましては、水火災、災害時のことはもちろん多々ありますが、平成21年の大阪府消防大会に高槻市から阿武野分団が小型ポンプ操法で参加したときのことが心に残っています。前年の11月から、自主練習を重ね、分団の支援を受ける中、翌年9月、大会に臨みました。選手達が好スタートをきりこれはややもすれば優勝か？というタイムでした。しかし、火点の横で筒先を撮影していましたが、筒先から水は出てきませんでした。いきなりポンプが停止したのです。これには分団全員が無念で悔しい思いをしたものです。しかし、結果は辛いものでしたが、それまでの練習訓練の過程というのは選手も支援もかけがえの無い経験をしたと思います。いま、団活動における団員の負荷が話題に上がりますが、団員のモチベーションを維持、向上をはかるには、こうした大会についても時代に応じて考える時が来ているのだろうかと複雑な気持ちです。

消防団員は、市民の生命、身体及び財産を守るという目的のため日頃の訓練、教育を行っています。しかし、近年消防団員数が減少しており上述の目的が十分に果たせないのではと危惧されます。入団した団員には、やはり自分の地域は自分で守る気持ちを持って、活発に団員活動をしていただきたいと思います。

団員の高齢化による定年延長や、OBの再支援など減少化防止策を計っていますが、若い世代にも魅力ある消防団として、幹部共々熟慮して入団促進を実現させたいものです。高槻市にお住まいの方、どうぞ消防団に入団してください。自分の地域は自分で守りましょう！